

研究結果報告書

研究結果

『史記』が日本に伝わって既に 1300 年が経ち、それぞれの時代背景に合わせて、その伝播・受容方式は異なっている。本研究では、室町時代を中心に、日本に現存する写本、抄本、刻本を考察対象とし、史記の伝播・受容様式を明らかにしようとした。

今回の研究では、南北朝時代の藤原英房著『史記説』、室町時代の桃源瑞仙著『史記桃源抄』、月舟寿桂(幻雲)著『史記注』、靈元著『史記注』等、史記を日本に伝播するうえで最重要となるこれらの書物を詳細に調べ、それぞれに付された注釈の意味や、それが史記伝播に果たした役割について分析を行った。

室町時代、五山の禅僧に代表される漢学研究は前人未踏の頂点に到達し、『史記』の研究にも新たな局面が現われた。「史記」注釈の特徴として、以下の点が挙げられる。

1. 注釈の類別上で、文意を解釈することを特長とし、句読を明らかにすることと同時に字義を解釈することを重要視し、文献を引いて、さらにこれを配列する。室町時代の『史記』についての接受を表明し、主要な目的は句読に準拠し、字義・文意に疏通することにある。はじめて『史記』に含まれる史学・文学と哲学思想などを解明する内容の基礎を備え、多面的な角度から『史記』の研究を成し遂げることを可能とする。

2. 列伝・世家と本紀に重点的に注釈を加え、書・表に対しては注釈を省略している。室町時代の時代背景を反映しているのか、『史記』の書・表の研究は未だ十分には展開されていない。

3. 注語を見ると、文献の引用が未だ充分とは言えない。とりわけ、字やことばに対する解釈に関しては、基本的に『説文』『爾雅』『広韻』『広雅』などの重要な文献を引用しておらず、一方では元代の黄公紹の『古今韻會』から多くを引用しており、字やことばをより一層正確に解釈することに影響を及ぼした。

これらの室町時代における「史記」注釈の特徴は、後代の人々が『史記』に注を加えるために先鞭をつけたものであり、多くの類似の著作を生み出したのである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

《史记》传入日本的时期及传播范围考论
-- 以日本藏古写本《史记》为中心

中国《史记》学会第十二届年会, 河南商丘 2013年10月

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 张玉春「室町时期日本接受〈史记〉的特点-- 以幻云〈史记〉注为中心」,
『历史文献与传统文化』第十七辑, 暨南大学出版社, 2012年12月。
2. 张玉春「日本藏黄善夫本〈史记〉研究」,
『历史文献与传统文化』第十八辑, 暨南大学出版社, 2013年10月
3. 张玉春「〈史记〉传入日本的时期及传播范围考论
-- 以日本藏古写本《史记》为中心」
『史记论丛』第十一辑(採択決定済み)、2014年7月掲載予定

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)